

しば子先生の

ミ

ニ

ミ

ニ

芝生教室

第50回 必要量



先生：前は必要十分な養分管理について説明したけれど良く理解できたかしら？

生徒：はい、最大成長の90%以上を維持するための養分管理が必要十分管理だということがわかりました。

先生：その通りね・・・養分不足は芝生の成長が悪くなるだけではなく、病害虫や雑草に対する抵抗性も下がり、暑さや寒さ乾燥などの環境ストレスに対する抵抗性も下がり、結局芝生が大きなダメージを受ける可能性が高くなって管理費が高つく結果になってしまうわね・・・必要十分な施肥と高い刈込頻度が芝生管理の基本中の基本ね・・・

生徒：本当にその通りだと思いました・・・では実際のところ必要な施肥量と言うのはどのように考えればいいのでしょうか？

先生：いい質問ね・・・必要な養分量は芝生の種類によって違うわ・・・右の表を見てちょうだい、芝の種類によって窒素の必要量は違うのよ・・・

生徒：本当ですね・・・「大変低い」では0でもいいんですね・・・

先生：そのとおり・・・窒素の必要量が低い品種は、いわゆるローメンテナンス用の品種・・・例えばハウス回りとか道路際などの低管理地用の品種ということね・・・

生徒：なるほど・・・と言うことは施肥量が少ないので刈高は下げられないが刈込頻度は少なくて済むということですね・・・

先生：そうそう、良くわかってるじゃない・・・この、低管理用の品種に肥料を多く施肥しても芝生は良くなるどころか悪くなってしまうわ・・・逆に必要量の「高い」品種を低施肥管理すれば、全く芝生として良くならない・・・逆に言えば、必要量の高い品種は、施肥量を多くすれば多くするほど優れた能力を発揮できるということね・・・

先生：なるほど・・・でもよく見るとそれぞれ必要量にかなり幅がありますよね・・・

先生：本当に鋭くなったわね・・・そのとおり、数値に幅があるわね・・・同じ品種の中でもローメンテナンスとハイメンテナンスと管理レベルで施肥量が変わるということよ・・・例えば、日本芝の場合刈高の低いグリーンやティーグラウンドの場合は多い側の必要量

で、より刈高の高いラフやハウス回りなどでは窒素の必要量は低い側ということね・・・

生徒：なるほど、「高い」の分類であるクリーピングベン

【各芝種の成長月の窒素必要量】

窒素肥料レベル	成長月のN必要量 (g/m ²)	芝種
大変低い	0.0 ～ 1.8	バッファローグラス パヒアグラス センチピードグラス
低い	0.9 ～ 2.7	チューイングフェスク レッドフェスク カナダブルーグラス
中程度	1.8 ～ 4.5	日本芝 トルフェスク イタリアンライグラス ペレニアルライグラス レッドトップ ラフブルーグラス アニュアルブルーグラス コロニアルベントグラス チモシー
高い	2.3 ～ 6.7	ケンタッキーブルーグラス クリーピングベントグラス パーミューダグラス

トグラスで低刈しているベントグリーンは最高に窒素が必要なんですわ・・・

先生：全くその通り！・・・この数値が一番いい季節、つまり寒地型なら春や秋、暖地型なら夏の「1ヵ月間」に必要とする量ね・・・細かく考えればこの数値を30で割った数値がおよそ一日に必要な量ともいえるわね・・・

生徒：なるほど、単純に一日0.1gなら月3g、月6gなら一日0.2gという計算ですね・・・

先生：そういう風に考えられるわね・・・あと、草種の中でも「品種」によって違う場合もあるから注意が必要ね・・・特にケンタッキーブルーグラスは様々なタイプがあって、一般品種（牧草）に近い品種からエリートタイプと言われるハイメンテナンス用のものまであるから品種によって施肥量が変わるわね・・・ペレニアルライグラス、クリーピングベントグラスも古い品種と新しい品種では大きく違うので注意が必要よ・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

